

平成26年 林業における死亡労働災害（北海道内）

番号	災害発生日時等	年齢等	災害発生状況
26年 NO1	2月10日 3時頃発見	男 46歳	<p>道有林の間伐作業で15時の集合時刻に戻らないことから、同僚が付近を捜索したところ頭部に傷を負い伐倒木の傍に座っていた被災者を発見した。</p> <p>現場の状況から、30度以上の急傾斜地でトドマツ(伐根直径42cm)の立木を斜面横方向(西側)に伐倒しようとしたが、伐倒木は斜面上方(南側)に倒れ、元口が伐根より11m谷側に滑落し伐根付近にいた被災者に激突したと思われる。</p>
26年 NO2	2月27日 10時	男 39歳	<p>緩斜面の皆伐作業で、胸高直径37cm、樹高31mのカラマツを伐倒しようとして受け口、追い口を入れたが倒れなかった為、その12m上方にあるカラマツ(胸高直径40cm、樹高31m)を倒して、浴びせ倒しを行ったところ、浴びせ倒された前記カラマツから29m下方で根掘りを行っていた被災者に同カラマツが激突した。伐倒者と被災者は別の班で、それぞれ2人組となって伐採作業を行っていた。</p> <p>伐倒者から被災者までは44m程離れていて、伐倒者が気づかなかったと思われる。</p>
26年 NO3	6月18日 発生時刻不明	男 54歳	<p>道有林トドマツの間伐箇所、被災者は単独でチェーンソーにより伐倒作業に従事。終業時刻(15時)を過ぎても被災者が現れないことから同僚が捜しに行ったところ、樹高20mのトドマツの先端から4m付近で下敷きになっているところを発見された。トドマツ伐倒木はかなりのつるがらみで、また伐根の受け口と反対方向に倒れており、追い口の形状も小さく、伐根のツルが切り離されていることから、かかり木となりこれを放置したか、あるいはつるがらみで自立している木を放置し、その樹高の範囲内で作業を行っていたものと推定される。</p>
26年 NO4	11月6日 13時40分頃	男 65歳	<p>被災者は民有林の間伐作業現場でトドマツを伐採していたところ、上部でつる絡みとなっていた枯損木のキハダも倒れ、被災者に激突した。他の労働者が集材路の確認のため被災者の作業場所にさしかかったところ、木の下敷きになっている被災者を発見した。</p> <p>トドマツと枯損木のキハダとの距離は2.5m程あり、被災者は伐倒予定方向から90~100°横方向に退避したが、ツル絡みで枯損木のキハダが倒れた方向と被災者が避難した方向が重なったと推定される。</p>